

令和2年度
(令和3年度事業)
高知市共同募金委員会
助成事業完了報告書

高知県共同募金会高知市共同募金委員会

◇目的

誰もが安心していきいきと暮らせる地域社会を実現するため、地域を良くしていこうと活動する福祉団体やボランティア団体等を支援する。

◇助成の種類

(1)高知市広域福祉活動支援事業

- 対象事業：広域的で公益性の高い活動及び事業に対し、助成を行う
- 対象団体：社会福祉団体、特定非営利法人、ボランティア団体等
- 助成限度額：総事業費の90%、最大20万円、但し同一事業に対する継続助成は最大3年

(2)小地域福祉活動支援事業

- 対象事業：小地域により良い具体的な変化が期待される活動及び事業に対し、助成を行う
- 対象団体：町内会、自治会や地域コミュニティ組織等
- 助成限度額：総事業費の90%、最大10万円、但し同一事業に対する継続助成は最大3年

(3)地域福祉推進事業

- 対象事業：高知市社会福祉協議会が行う地域福祉の活動及び事業に対し、助成を行う
- 対象団体：高知市社会福祉協議会
- 助成限度額：なし、但し単年事業で継続助成は原則5年

◇助成決定額

- (1)高知市広域福祉活動支援事業：9団体、887,000円（内、2団体が辞退）
- (2)小地域福祉活動支援事業：6団体、393,000円
- (3)地域福祉推進事業：2件、300,000円

◇事業募集から助成金交付までの流れ

- [受付期間] 令和2年12月1日～令和3年1月15日
- [審査] 令和3年2月16日(審査委員会)
- [決定] 令和3年3月25日(運営委員会)
- [事業実施期間] 令和3年4月1日～令和4年3月31日

～目次～

□高知市広域福祉活動支援事業（7団体）

- 高知市町内会連合会 P1
- サードプレイスすろーを支える会 ふらっと . . . P2
- あさひ共同作業所 P3
- おんちゃんクラブ P4
- あいあい・まんま食堂 P5
- ボランティアサークルハートワン P6
- いっぽいっぽつながり企画 P7

□小地域福祉活動支援事業（6団体）

- オレンジカフェふなおか実行委員会（鴨田地区） P8
- 子ども食堂かもだ実行委員会（鴨田地区） P9
- ヤングジェネレーション高知（旭地区） P10
- シルバーサロン笑話会（鴨田地区） P11
- 緑ヶ丘団地町内会（一宮地区） P12
- 久重地域連携協議会（一宮地区） P13

□地域福祉推進事業（2事業）

- 赤い羽根共同募金推進計画策定事業 P14
- 赤い羽根お仕事応援プロジェクト P15

◇審査委員からのコメント P16

**1. 団体名
(事業名)**

**高知市町内会連合会
(高知市町内会連合会広報活動)**

2. 総事業費

992,854円 (助成金 150,000円 その他財源 842,854円)

3. 主な用途

年2回、各町内会・自治会へ配布する会報の発行に伴う作成費用

4. 実施内容

(※完了報告書より抜粋)

当連合会では、年2回会報を発行しています。

9月号は町内会に加入している811町内会・自治会、1月号は高知市にある全町内会・自治会に配布し、組織の拡大を図っています。

この度の助成金により、紙面の一部をカラーに変更し、わかりやすく、読みやすくなるよう更新しました。会員からも大変好評いただいております。



5. ありがとうメッセージ

この度は、広報活動(会報の発行)に助成金を活用させていただきありがとうございました。

当連合会は、少ない予算で運用・活動しておりますので、今後2年間継続して助成していただきますことは大変助かります。これからもよろしく願いいたします。

6. 職員所感

年2回(9月・1月)に発行している会報は町内会連合会に加入している811町内会・自治会に配布され、その会報には「赤い羽根共同募金からの助成を受けている」ことの記載や、9月号には共同募金のしくみについての記事の掲載をさせてもらったことで、より多くの住民に「赤い羽根共同募金」についての周知がされたと感じます。

また、町内会・自治会の協力なしでは共同募金は成り立たない現状があるため、より多くの方に共同募金のしくみを知ってもらおうきっかけになったのではないのでしょうか。

1. 団体名 (事業名) サードプレイスすろーを支える会 ふらっと
(カルチャー教室のメニュー開拓)

2. 総事業費 34,953円 (助成金 30,000円 その他財源 4,953円)

3. 主な用途 映像を取り入れたカルチャー教室を実施するための機器等の購入費用

4. 実施内容 (※完了報告書より抜粋)

障害の有無に関わらず、生きづらさを抱えている人たちと共に、月2回のカルチャー教室を帯屋町のカフェ「サードプレイスすろー」を借りて、当会が平成26年より実施してきました。しかし、コロナウィルスの拡散状況は変わらず、三密を考慮して定例の教室は休止し、状況に応じて随時開催しました。

メニューに映像を取り入れ、適当と思われる映像をボランティア含め数人で視聴し、知識や技能を得たり、感想を述べ合い、コミュニケーション力を養うことができました。

コロナ禍の社会状況であるからこそ、今まで以上に上記の方々は勿論、シニア世代の居場所や交流の場の必要性を痛感しています。

会場費については、本年度は予算がなくなり「カフェ サードプレイスすろー」経営者の高橋英美氏に無料提供してもらいましたが、コロナ禍の影響で経営不振の経営者にこれ以上の個人負担を強いての継続は困難であると感じています。



5. ありがとうメッセージ

コロナの状況に応じて、少人数で映像等を使用したカルチャー教室を実施しました。視聴後、参加者から「交流の機会が少ないので一緒にDVDを観て、他の人の意見を聞くことができ良かった」「自分の感じたことを聞いてもらえて嬉しかった」「もっとみんなで一緒に観たいね」等の感想がありました。

カルチャー教室は、コロナ対策を徹底しており、安心して出かけられる場所として、利用者にとって無くてはならない交流の場所であり定例の開催が望まれています。プロジェクター等の導入後は映像を複数人で観られるようになり、メニューが広がり、テーマについても、積極的に提案される姿もみられました。助成金により教室内容を充実することができ、ボランティアや利用者一同、感謝しています。

6. 職員所感

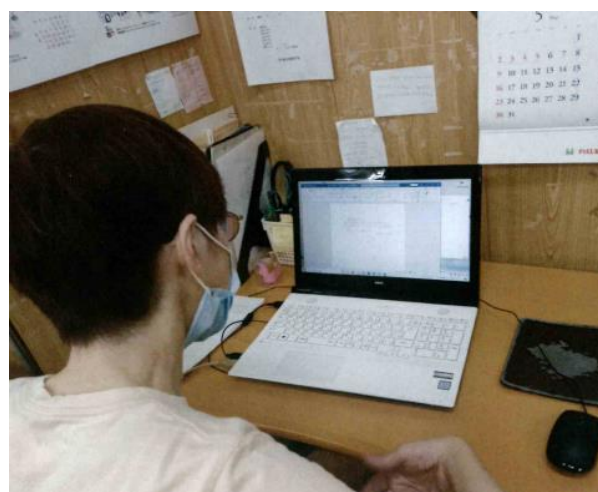
コロナ禍でも、プロジェクター等を活用することで、感染対策にもつながり、多くの方が安心して参加できる場となりました。助成金を活用し物品を購入したことで、団体の方からも新たな取り組みの必要性の声が上がっていることから、参加者・団体の皆さんの活動継続に向けてモチベーションの向上にも繋がったのではないかと考えます。

1. 団体名 (事業名) **あさひ共同作業所**
(あさひ共同作業所通信作成・利用者の余暇活動等のパソコン購入)
2. 総事業費 198,000円 (助成金 75,000円 その他財源 123,000円)
3. 主な用途 2カ月に1回発行している通信作成や、利用者の余暇活動のためのパソコン購入費用
4. 実施内容 (※完了報告書より抜粋)

国保連請求事務を行っているパソコンと分離したことにより、データの消滅や破損に気を遣うことなく、通信の作成や昼休みの余暇などでパソコンを使用することができるようになりました。

単調な作業をしていてウトウトしている利用者も頑張ってくれて作業をしてくれるようになりました。パソコンを購入することで昼休みが充実し、仕事に対する意欲や効率の維持にもつながっています。

パソコンを使用したい人が多く、自分のスマホを持っていない利用者はパソコンの取り合いになってしまうので、追加で購入を検討しています。



5. ありがとうメッセージ

お昼休みにゲームやビデオを見ることができるようになって楽しめています。お昼休みが充実することで、仕事と余暇のメリハリが付いて、利用者の仕事に対する意欲も向上しました。ありがとうございました。

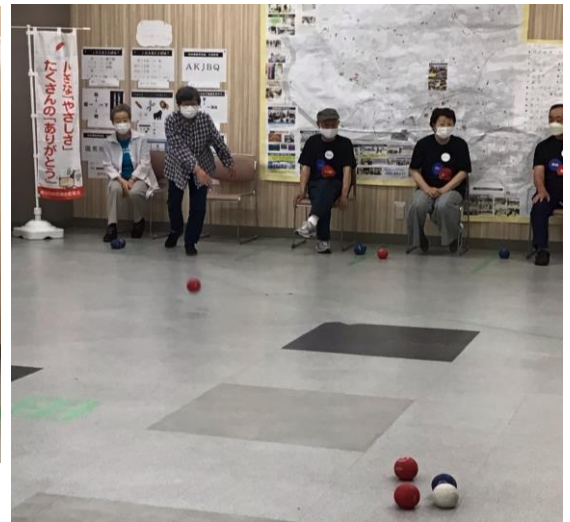
6. 職員所感

パソコン購入により、利用者の方の余暇の時間が充実したことで、利用者の方の仕事に対する意欲向上につながったことは、成果の一つだと感じます。

今後もパソコンを活用することにより、利用者の方の仕事と楽しみのバランスが保たれ、意欲的に仕事に取り組める場所になるのではないかと感じます。

1. 団体名 (事業名) **おんちゃんクラブ (おんちゃんクラブ)**
2. 総事業費 144,360円 (助成金 75,000円 その他財源 69,360円)
3. 主な用途 ボッチャ道具一式とコロナ感染予防のための消耗品購入費用
4. 実施内容 (※完了報告書より抜粋)

おんちゃんクラブはボッチャを3会場で開催しており、男性のとじこもりをなくし、楽しい活動をしています。令和3年度も、3会場でのべ500名近い参加となりました。コロナでお休みの時期はありましたが、助成金により、コロナ感染予防のための消耗品や道具一式を購入することができました。会員を増やすことが今後の課題です。



5. ありがとうメッセージ

会員(参加人数)が大幅に増えて、活動が活発になりました。男性のとじこもりの防止や、多世代で参加できるスポーツとして地域に普及しています。

6. 職員所感

コロナ禍でも男性高齢者のとじこもり防止を目的として、活動を継続し、活躍の場をつくることで地域社会とのつながりを確保されていました。また、道具一式を購入したことにより、地域の様々な場所で実施をし、団体メンバーのみならず、多くの地域の方々の居場所となっていることが、参加者人数が延べ500名となっていることから感じられます。

今後もボッチャの活動啓発を通じて、地域の方々のつながりや居場所をつくっていただきたいです。

1. 団体名 (事業名) **あいあい・まんま食堂 (子ども食堂)**
2. 総事業費 714,802円 (助成金 149,600円 その他財源 565,202円)
3. 主な使途 コロナ感染対策として、安全性を考慮して時短で済ませるための調理器具(フードプロセッサー)の購入費用
4. 実施内容 (※完了報告書より抜粋)

コロナ禍の中、やむを得ず中止となった時期もありましたが、地域のコミュニティの役割はできつつあり、弁当を配布するのみならず、みんなで食事をする場も感染対策に留意しながら提供できました。今後もこの状態での対応は続くと思いますが、地域の方々が集まれる場所として、活動を続けていきます。



5. ありがとうメッセージ

おかげさまで作業の効率もあがり、スムーズにできています。ありがとうございます。

6. 職員所感

コロナ禍でもお弁当配布や食事をする場を提供され、継続的に活動をされてきたことにより、地域の中での役割ができていることは成果だと捉えます。

また、物品を購入したことで、作業の効率もあがり、活動を継続していく為のモチベーションの一つになっているのではないかと感じます。

また、多世代交流として子どもに限らず、地域の方々が食事を通じて、楽しく集える居場所として貢献されていると感じます。

1. 団体名 (事業名) **ボランティアサークルハートワン (自団体における活動内容の広報)**
2. 総事業費 77,800円 (助成金 67,000円 その他財源 10,800円)
3. 主な用途 自団体の活動を多くの方に認知してもらうための広報活動に必要なパソコンの購入費用
4. 実施内容 (※完了報告書より抜粋)

現在8名で活動しており、令和3年度は高知市内の施設3カ所(ヘリオス・楽リハ・ハートクラブの中にあるサムフォット)に訪問を実施しました。その際にもパソコンを活用し、チラシを作成、広報活動を行いました。施設の方からは、「また来てよ」「待ちゆうきね」等のお声をいただき、メンバーの励みにもなっています。

また「ハートワン通信」として、活動した内容等が分かりやすいように工夫をしながら作成し、現在18カ所の施設や事業所に郵送し、広報活動を行っています。

その他の活動としても世界の子どもたちのためにということで、ペットボトルのキャップを集め、朝倉第二小学校に寄付する活動も実施しています。

今後はチラシの配布先を増やし、ホームページを作成し、自分たちの活動を広く知ってもらい、また一緒に活動する仲間も増やしていきたいと考えています。施設訪問でのふれあい(演奏会やイベントの主催・運営)やスポーツイベント等の障がい者参加の支援、障がい者団体のイベント参加支援も継続して行っています。



5. ありがとうメッセージ

助成金をいただき、購入したパソコンで広報活動を中心にやってきました。コロナ禍で普段の活動があまりできない中、チラシを作成し各施設に送ることで、いくつかの施設からの依頼もありました。また、作業効率も格段に良くなり、これからもより多くの皆さんに知ってもらえるように活動していきたいと思っています。本当にありがとうございました。

6. 職員所感

3カ所の施設訪問を実施しており、その時の様子や活動内容等についてパソコンを活用し、分かりやすく広報したことで、新たに依頼があったことは成果と捉えます。今後は購入したパソコンを活用し、ホームページを作成するというので、より広く活動の周知や一緒に活動する仲間を増やしてもらうことにより、団体の活動が幅広くなることを期待します。

1. 団体名 (事業名) **いっぽいっぽつながり企画
(発達障害児者のくらしを支えるための講座の開催)**
2. 総事業費 85,962円 (助成金 60,000円 その他財源 25,962円)
3. 主な使途 発達障害児者の家族、支援者を対象とした講座開催に係る費用
また同じ悩みを抱える人たちと意見を共有できるメーリングシステムに参加する費用
4. 実施内容 (※完了報告書より抜粋) ※(株)おめめどうが運営する発達障害に関する悩みを相談できるメーリングリスト

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、講座やシェア会の開催が予定よりかなり制限されてしまいましたが、その中でも、4回のシェア会を開催し、延べ40名の参加がありました。また、リアルでの相談の他、「おめめどう」のネットでの相談サービスも活用し、よりお悩みに寄り添えるように工夫して活動してきました。

参加者には、発達障害児の保護者や支援者が集まりました。小学校から成人施設での話題など年齢層が幅広く、視覚支援はどの年齢にも必要な支援であることを再認識しました。

窮屈な生活の中で、一人で悩み抱えることはかなりの負担となります。ゆったりとした時間の中の雑談の中に、本当の困りが混ざっていることがあります。実際に合って話すことの大切さもこの一年で感じたことでした。



5. ありがとうメッセージ

この度は、講座開発のためにご支援ありがとうございました。自閉症・発達障害児の暮らしを支える視覚支援は、小さい子どもから成人までみんなに必要なものです。家族や支援者、なにより当事者の「暮らしを支える」ことができるような場づくりをこれからも続けていきたいと思えます。

6. 職員所感

オンラインの活用など工夫を凝らしながら悩みを抱える方たちに寄り添う支援活動をされており、視覚支援はどの年齢にも必要であると、改めて再認識できたことは、今後団体の支援活動に大切な気付きになったのではないのでしょうか。また、家族や支援者、当事者の暮らしを支える場に大いに貢献されていると感じます。

1. 団体名
(事業名)

オレンジカフェふなおか実行委員会
(オレンジカフェふなおか)

《鴨田地区》

2. 総事業費

100,000円

(助成金 56,000円

その他財源

44,000円)

3. 主な用途

新型コロナウイルスやインフルエンザの感染予防対策として加湿空気清浄機の購入費用

4. 実施内容

(※完了報告書より抜粋)

助成をいただき、空気清浄機2台を購入できたので、コロナ対策をして参加者が安心して参加できたことは大変嬉しく思います。しかしながら、参加者が徐々に減少していることが課題と感じています。コロナ感染症の影響もありますが、原因のひとつとしてカフェの催し内容がマンネリ化している事が考えられるので、体を動かす体操やゲームや手先指先を使う創作活動など新しい企画を取り入れ、できるだけ多くの高齢者に楽しんで参加していただけるよう工夫して運営していきたいと考えています。



5. ありがとうメッセージ

734世帯の団地で認知症カフェを開催して3年を迎えましたが、団地内は年々ひとり暮らしの高齢者が増え、交流もだんだん少なくなってきました。そんな中でも、認知症カフェへの参加を積極的に呼びかけ、高齢者が少しでも楽しく、笑いながら過ごせるよう助成金を活用させていただいています。ありがとうございました。

6. 職員所感

助成金を活用して、参加者の安心を確保することができます。

団地内の交流が減少してきているとありますが、様々な内容を企画・実施することで、高齢者の生きがいや健康づくりに貢献されていると感じます。

1. 団体名 (事業名) **こども食堂かもだ実行委員会** **《鴨田地区》**
(鴨田地域の家庭への配食事業と子ども食堂の運営)
2. 総事業費 623,492円 (助成金 75,000円 その他財源 548,492円)
3. 主な使途 食支援での見守り活動に伴う必要経費
4. 実施内容 (※完了報告書より抜粋)

2020年3月より、運営していた2箇所のこども食堂を休止したため、配食を行いながら支援と見守りを行いました。子育て支援センターの保健師と鴨田地区のスクールソーシャルワーカーから、支援が必要な家庭の家族構成を報告いただき、こども食堂かもだ実行委員会が助成金で食品を購入、又、各方面に食品寄贈を依頼し、準備をしました。ジュースや果物、年齢に合わせた食品、常温保存食品、季節感を味わって貰えるようおでんやクリスマス菓子セット、鏡餅飾りや手作り惣菜など届ける食品を工夫しました。農家からいただいた野菜には調理方法も添えて届けました。

プライバシーの観点からお届けするのは主に保健師とスクールソーシャルワーカーが行いましたが、一部の家庭には、こども食堂のスタッフも届けることができました。

保健師やスクールソーシャルワーカーからの要望で、昨年4月以降から訪問家庭が増加し、2月現在で30世帯128名に増加しています。11ヶ月間で延べ318世帯1361名(内子ども837名)、参加ボランティアは毎月10名程度で、延べ120名が参加してくれています。



5. ありがとうメッセージ

みなさまのご寄付のおかげで、鴨田地区の支援が必要な家庭に、ささやかではありますが食品を配布することができて、有難く思っています。きっと配布先のみなさんにも喜んでいただけていると思います。保健師やスクールソーシャルワーカーからも感謝の言葉をいただいています。

本当にありがとうございました。活動は継続していきますので、応援よろしく願いいたします。

6. 職員所感

支援が必要な家庭に支援、見守りを行う為、子育て支援センター保健師や鴨田地区のスクールソーシャルワーカー、農家の方等様々なつながりをつくり、支援が必要な家庭に配食を行っていました。

配食する中では、季節感を味わってもらう工夫や、調理方法も添えてお渡しすることで、配布先のみなさんに喜んでいただけていることが感じとれます。

訪問家庭も増加し、鴨田地区で支援を必要としている家庭の為に、大いに貢献されていると感じます。

1. 団体名 (事業名)	ヤングジェネレーション高知 (お出かけ出張サンタ INあさひ)	《旭地区》
2. 総事業費	100,261円	(助成金 66,000円 その他財源 34,261円)
3. 主な使途	「お出かけ出張サンタ」を町内会と連携し、実施するための必要経費	

4. 実施内容 (※完了報告書より抜粋)

旭北町、元町地区を対象に、総勢28名(青年団・大学生・アテラーノ旭・地域のみなさん)がサンタとなり、クリスマスイブの夜に22世帯47人の子ども達にプレゼントを渡しました。

この活動を通して、コロナ禍で学校や地域の中でも三密やソーシャルディスタンスなど、子ども達の暮らしにも制限や、与えた影響も大きかった中で、出張サンタ事業を通して子ども達が「楽しい!」「夢を届ける」ことができました。

また、近年地域活動に参画する若者は減少傾向にあるが、地元旭地区の青年はじめ17人の若者が参加し、「子ども達の笑顔にこちらが元気をもらえた!」と参加した若者からの感想もありました。コロナ禍で地域活動が難しかった中でサンタを通じての世代間交流もできました。

今回が地域エリアを絞って家庭の募集をしましたが、想像以上の反応で、みなさんにもご協力いただいたが手一杯でした。今後さらに高知市内でお出かけ出張サンタ事業を広げていくにあたり、体制の強化や地域のみなさんとの協力をさらに強めていきたいです。



5. ありがとうメッセージ

若者だけでは、なかなか活動をやりきることが難しいところ、みなさまからのご寄付のおかげで老若男女多くの方々が集い、みんなと一緒に子ども達を笑顔にすることができました。ありがとうございました。今回をきっかけに、さらに高知市内の若者と地域をつなぎ、各所でにぎわいづくりができるよう、頑張って参ります。

6. 職員所感

コロナ禍で子どもたちの暮らしに制限がされていることに目を向け、工夫を凝らし、出張サンタを実施されていました。子どもたちに笑顔をお届けするだけでなく、参加者が子どもたちの笑顔を見て元気をもらい、やりがいを感じられていたことも活動の一つの成果だと捉えます。

また、子どもたちや、活動された方の世代間交流となったことはもちろん、若い世代の方が地域で活躍できる場所づくりにも貢献されていると感じます。

1. 団体名 (事業名) **シルバーサロン笑話会** (シルバーサロン笑話会の月例会) **《鴨田地区》**
2. 総事業費 52,364円 (助成金 47,000円 その他財源 5,364円)
3. 主な使途 講師謝金等, サロン活動を継続するための必要経費
4. 実施内容 (※完了報告書より抜粋)

昨年度のタクシーでのお出かけプランに期待の声が多く、今年度も計画しました。ジャンボタクシー2台を利用し、のいち動物公園へ行きました。前日の寒い雨天から一転、当日は暖かい秋日和に恵まれ、木陰の散策はコロナの巣籠りからの解放感でいっぱい、久しぶりに会話もできたし、動物たちにも話しかけながらゆっくり楽しむことができました。レストランでの昼食、おやつ、売店の利用等ささやかなことでもシルバー世代には気分転換のひとつときであり、助成金に感謝でした。課題としては、欲張って見学した方は予想以上に歩行距離が長く(約5000歩)、疲れていたのが今後の参考とします。

11月は龍馬月間でもあることから、昨年好評だった坂本龍馬の講話の続編を実施しました。大河ドラマと同時代の講話で、興味深く、講話後には質問もあり、更に次回の講話の演題にまで話が進展し、期待に応えられるか、スタッフへの嬉しい宿題が課せられました。



5. ありがとうメッセージ

小さなサロンに今回も助成をいただき、出番縮小状態の高齢者は感謝でいっぱいです。笑話会では、この1年間に病気や高齢で参加できなくなった方が数人います。元気で集えることの限界を感じています。少しでも希望の持てる高齢者対策を期待します。

6. 職員所感

今年度もお出かけの計画を立て、コロナ禍で外出する機会の少なくなった方たちが集える時間をつくっていただきました。参加者が昨年度に引き続き、今年度もお出かけを楽しみにされていたことから、活動の場が高齢者の生きがいに貢献されていると感じます。

1. 団体名 (事業名) **緑ヶ丘団地町内会** **《一宮地区》**
(ずっと一緒に暮らせる緑ヶ丘団地づくり事業)
2. 総事業費 86,781円 (助成金 74,000円 その他財源 12,781円)
3. 主な用途 新型コロナウイルスの影響を考慮し、屋外で「陽だまりサロン」を開催するために必要な物品購入費用
4. 実施内容 (※完了報告書より抜粋)

昨年度計画していた屋内での「陽だまりサロン」がコロナのため実施できず、屋外で「青空シアター」と名称を変えて実施しました。その経験から、今年度は青空でも実施できるよう、アウトドア用品を購入、屋内屋外どちらでも実施できるよう準備し、11月に屋外、1月に室内での開催を計画しましたが、11月は気候条件から屋外での開催を断念、屋内で実施。1月はコロナの拡大のため開催を断念しました。

子どもたちの交流が深まり、開催の成果がありました。今後コロナの状況がよくなれば開催回数を増やすことができ、本来の目的である高齢者の集いの場づくりが進んでいくものと思っています。



5. ありがとうメッセージ

高齢者の集いの場である「陽だまりサロン」をコロナ対策として屋外でも実施できるよう、アウトドア用品を購入しました。今年度は気候条件やコロナ第6波の影響で1回の室内開催にとどまりましたが、コロナが収束すれば屋内でも屋外でも多くの開催ができる環境が整ったことが地域の喜びであり、今後への大きな期待となっています。

6. 職員所感

昨年に引き続き、屋内外でもイベントが実施できるよう検討し、人が集まるための創意工夫をされています。野外使える物品を購入したことで、コロナ感染対策を考えた多世代交流の場となっており、今後も地域の方々が楽しみながら集まりやすい活動として継続されることが期待されます。

1. 団体名 (事業名) **久重地域連携協議会** (ほおっちょけんの久重づくり事業) **《一宮地区》**
2. 総事業費 98,799円 (助成金 75,000円 その他財源 23,799円)
3. 主な用途 オレンジポスト回収交通費, 連携協ニュース・アンケート結果冊子印刷費
4. 実施内容 (※完了報告書より抜粋)

住民の声が地域に届くためには、常時受け付け可能な相談窓口の設置が望ましいですが、久重地域には薬局や社会福祉法人施設が皆無であるため、当面は2020年度末に地域内12カ所の町内会や公民館掲示板に併設した「オレンジポスト」の運用・活用を図ることにしました。

オレンジポストは役員が交代で毎月15日と月末に回収し、投稿はすべて役員で協議し、必要な機関につなぐとともに、連携協ニュースで地域に返しました。これまで届かなかった地域の声がオレンジポスト開設を機に次第に届き始めていることが、大きな成果です。

また、地域学習を進めるために、久重地域の人口動態分析と住民アンケート(意識)調査を実施しました。意識調査では地域課題の重要度が第3位であるが、取り組みに対する満足度は中間以下の16位という結果が出され、共生社会に本気で取り組まなければならない根拠が明らかになりました。



5. ありがとうメッセージ

オレンジポストの運用を通じて、地域の声が少しずつ届くようになりました。人口動態の分析や住民アンケート(意識)調査の実施により、なぜ「久重型共生社会」の推進に取り組まなければならないかの背景も明らかになり、地域学習が進めやすくなりました。

6. 職員所感

オレンジポストへ投稿されたものは役員で協議し関係機関へのつなぎ支援等を行っており、オレンジポスト設置をきっかけに、これまで届かなかった地域の声が届き始めています。

この取り組みにより、地域の生活福祉課題の把握ができ、相談内容等を地域へお返しする事で、地域共生社会の推進に繋がります。また、地域学習の取り組みにも活用され、今後の地域福祉活動にとってなくてはならないものになっていると考えられます。

1. 団体名 (事業名) **高知市社会福祉協議会
(赤い羽根共同募金推進計画策定事業)**

2. 総事業費 30,000円 (助成金 30,000円 その他財源 0円)

3. 主な用途 講師謝金

4. 実施内容 (※完了報告書より抜粋)

今年度は本来、計画策定のためのプロジェクトチームを立ち上げ、検討を進めていく予定としていたが、呼びかけをした際にモデル地区として手が挙げられなかった事で地区委員会と事務局とのギャップがあることが明確になりました。ギャップを埋めていくために地区委員会を対象として共同募金活動の先進地である高島市社会福祉協議会の橋詰氏と高島市で実際に募金ボランティアとして活動している方に事例発表していただき意見交換を行う研修会を企画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、事務局のみとのセッションを実施しました。セッション内容は、録画させていただき、コロナが落ち着いた際には地区委員会に向けて改めて研修会を実施したいと考えています。

高島市社会福祉協議会とセッションするなかで、高知市共同募金委員会事務局として地区委員会に寄り添った協議ができていなかったことを再認識し、来年度は地区ごとにヒアリングを実施し、地区と一緒に課題解決を図っていく必要があると考えています。



5. ありがとうメッセージ

昨年度から引き続きこの助成金を受けさせていただきました。今年度は地区委員会と共に取り組んでいきたいと考えていた「赤い羽根共同募金推進計画」がなかなか進まず、事務局としても模索しておりました。そういった中、この助成金を活用させていただき、再度共同募金活動の先進地で実際に募金ボランティアとして活動されている方からのお話を聴き、意見交換をすることで、改めて高知市のまちを良くするしくみとしての「共同募金」を地域の方と一緒に取り組んでいくヒントをいただきました。

本当に、ありがとうございました。

6. 職員所感

共同募金を地域の方と寄り添い、仲間とともに取り組み、近年減少する一方の募金活動の未来を変えるべく、一層の努力をしていく必要があると感じました。

1. 団体名 (事業名) **高知市社会福祉協議会 (赤い羽根お仕事応援プロジェクト)**

2. 総事業費 55,607円 (助成金 50,000円 その他財源 5,607円)

3. 主な使途 就労に向けて必要な道具(雨具や靴)等購入費用

4. 実施内容

中長期的な引きこもり状態や、経験の不足などから、働きたいけどそのために準備が必要な方へ、挨拶や活動習慣の定着など、日常生活や社会生活の自立を支援し、就労までサポートする活動を行っています。その一環で、採用決定後、経済的な理由から働くための道具の購入ができない方々へ、継続して就労できるように、雨具や衣類など、必要物品の貸与・支給を行い、安心して働くことができる環境づくりをお手伝いしています。



5. ありがとうメッセージ

この助成金があったことで既存の制度では対応できなかった“働くための準備を応援する”ことができました。この取り組みは生活困窮者自立支援法における就労準備支援事業と一体的に行っており、継続して活動に参加する習慣づくりや、他者と協働する時間を作ることで就労に必要なスキルアップを目指しています。しかし事業の中でできることには限界があり、せっかく希望職種に就けても、“屋外で就業するのに雨具がない“,”仕事着として着用できる衣類がない“など特に採用後に必要となる物品の確保に課題を抱えていました。この助成金があったことで数名の方が採用後、安心して働く準備が出来ました。

6. 職員所感

お仕事応援プロジェクトの取り組みから、数名の方が就職へと繋がっています。実際に就職をする際の支援だけでなく、就職までに必要な物があることや就職時に必要な物品の準備で、当事者の精神的安心が確保され、就労に繋がっています。制度の狭間で困っている方へのサポートを実施し、就職へと繋がった事は大きな成果だと感じます。

◇審査委員からのコメント

○おんちゃんクラブさんは、退職後男性の付き合いが特に狭いということに目を向けて、男性を引き出している狙いは、本当に的を得ていると思いました。子ども食堂さんについては、食べ物を提供するだけでなく、子ども食堂を通して、様々な地域とつながりができている為、ぜひ発展していただければと感じます。食品必要としているニーズがあるということで大事な活動だと思います。ヤングジェネレーションさんは、サンタ役の若い方の言葉が印象的で、子どもたちや家族が喜んでくれたことがやりがいになり、来年もやりたいという気持ちにつながるのではないかと思います。社協での取組みについても、働くことは単に収入を得るだけでなく、生活リズムを整えて他の人とつながっていく大事な意味があり、働くことへの支援は非常に意味があると感じました。（西村委員）

○このような事業が実施できていることは嬉しく思っています。様々な地域活動に加えて、備品やパソコン等も購入できることは、総合的にみてありがたい事業と思っています。今後も継続していくことで、地域活動の活性化に貢献できると思います。（長尾委員）

○シルバーサロン笑話会さんは、助成金を活用していましたが、この助成が終了した後の活動は継続できるのかと心配に感じました。また、全体的に助成先のエリアがバランスが出てきたように感じます。また、こども食堂も大変だと実際活動している場面を見て感じています。（福原委員）

○申込み件数が全体的に非常に少ないと感じます。一般的な助成事業で購入できないパソコン購入であったり、こども食堂さんでも金銭面でも厳しいという話も聞くことがあります。活動をしていきたい方はたくさんいらっしゃると思いますので、この助成事業について今後広く周知・広報していくことが必要と感じます。こちらから投げかけていくことで、申し込みも増えて輪が広がっていくのではないかと思います。（黒瀬委員）

○藤原委員さんや黒瀬委員さんがパソコン購入について意見を言っていたように購入の目的をもっと具体的にどんな目的で使用するのか、ただインターネットの接続し閲覧するだけなのか、写真とか動画の編集するのか、フリーソフトで作業できるのか、有料ソフトを購入しないといけないのか、自分も動画編集するのでわかりますが、一般的なノートパソコンではCPUの処理能力が遅いのでまともな処理ができません。今は動画もBlu-rayが主流になってきているので、書き込みのことも考えないと、後から外付けのポータブルBDドライブを購入しないといけなくなります。活動の助成事業ですのでみんなで一緒にできる遊び、楽しみのための器具やアイテムを見つけて、紹介してください。旭地区のヤングジェネレーション高知の活動のように若い世代も巻き込んだ活動をもっと広げて行きたいです。大学生も地域活動に関心を持っていますのでつながりを広げる広報活動をやっていきましょう。（田所委員）

◇審査委員からのコメント

○それぞれの活動が、コロナ禍においても工夫して継続されたことがわかりました。また、広報誌での「赤い羽根共同募金からの助成」の明記や、物品（プロジェクターなど）へのシール貼付など、助成を受ける側の意識の向上が見られました。助成金の使途として、講師謝金や支援食品の購入については議論の余地がありそうですが、それを契機として団体の活動に活気が出たり、市民への支援の輪が広がったりするのであれば、一定の役割があったものと評価できるのではないかと思います。また、高知市社会福祉協議会による自立支援のための「お仕事支援プロジェクト」については、実際に数名の方が就職へ繋がったということで、非常に有益な助成であったと思います。（玉里委員）

○現在の様に各団体にヒアリングを行いながら本当に必要な団体に助成を行っていくことが大切だと思います。備品購入にしても、単に備品を購入するということではなく、事業に活かしていくような使い方をする団体に対して助成をするということが必要となると思います。また助成金の利用団体が偏らず、共同募金助成事業の取り組みが広がっていく事を期待します。現在の共同募金助成事業の取り組みを継続していくことで、助成金の活用の周知にもつながり、高知市全域に浸透していただきたいと思います。（藤崎委員）

※このコメントは、令和4年7月27日（水）に開催された令和4年度高知県共同募金委員会高知市共同募金委員会にていただいた意見をまとめています。

令和4年度高知県共同募金委員会高知市共同募金委員会の様子



令和2年度(令和3年度事業)
高知市共同募金委員会助成事業完了報告書

作成日 2022年11月1日
発行者 高知県共同募金会高知市共同募金委員会
連絡先 〒780-0850 高知市丸ノ内1丁目7番45号
総合あんしんセンター3階
TEL : 088-823-9570
FAX : 088-856-5549